

史学委員会国際歴史学会議等分科会
(第26期・第1回)
議事要旨

日時：2024年1月31日（水）10:00～12:00

会場：オンラインによる開催

出席者：小田中直樹、吉澤誠一郎、浅田進史、飯島渉、石居人也、北村陽子、
小関隆、中野聡、松方冬子、三ツ井崇

議事の要旨

1. 役員を選出

本期の役員を選出した。委員長に吉澤誠一郎委員、副委員長に小関隆委員、幹事に浅田進史委員および松方冬子委員が互選された。

2. 前回議事要旨の確認

第25期・第3回の議事要旨のなかで、日韓歴史家会議の開催日に誤記があったので訂正した。

3. 国際歴史学会議（CISH）に関する件

吉澤委員が、第25期までの経緯を踏まえて、本分科会が国際歴史学会議からみて日本の国内委員会として位置づけられていることについて説明した。そして、次の諸点を確認された。

- ・国際歴史学会議は、2024年10月に東京で総会を開催する予定である。
- ・国際歴史学会議東京総会に付随する形で、日本国内委員会と日本歴史学協会の共催により学術集会を開催する。本分科会ではこれを小関・浅田・吉澤が担当し、別途、実行委員会を組織して、渡邊啓貴氏および左近幸村氏ほか若干名を加える。テーマは Crossings and Connections: East Asia and the World, c1800-1945 とし報告者を公募する。
- ・2026年にエルサレムで開催される予定の国際歴史学会議第24回大会については、今後の状況を注視する。

4. 日韓歴史家会議に関する件

飯島委員から、日韓歴史家会議が 2023 年 11 月にソウルで開催されて成果を収めたことが紹介され、今後もこの会議を継続していくこと、それにあたっては財源の問題が重要であることの説明がなされた。その後、日韓歴史家会議の内容をどのように公開していくのが適切かについて意見が出され、今後も望ましい公開のありかたについて検討がなされるように期待することとした。

5. 「歴史学の「国際化」とは何か」シンポジウムの開催報告

本分科会は、日本歴史学協会と共催で、2023 年 7 月 23 日にオンラインにて「歴史学の「国際化」とは何か」を開催した。参加人数は講演者・司会等が 10 名、その他の参加者は 172 名であった(接続者最大時)。

今後も論点を絞ったり、新たな論点を加えたりした形で、歴史学の「国際化」について考える企画を立てていくので、松方委員がその取りまとめを担当することとした。

6. その他

- (1) 学術論文等のオープンアクセスの推進の動向は、歴史研究やその国際化にも大きな影響を与える可能性があることから、今後も留意していくこととした。
- (2) 次回の分科会は次年度(2024 年 4 月以降)の開催予定とする。

以上